

第12回 渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会

議事概要

日時：令和元年9月30日（月）15:00～17:00

1. 開会

〈開会の挨拶〉

2. 事務所長挨拶

〈事務所長の挨拶〉

3. 委員長選出

- ・規約に基づき互選による選出を実施。
- ・互選がないため、事務局にて前回委員会で委員長代理を務めた青木委員を推薦。
- ・各委員の同意により委員長が決定。

3. 委員長挨拶

〈委員長の挨拶〉

4. 議事

(1) 委員会の運営について

事務局) 〈資料-5を説明〉

(2) 平成30年度及び令和元年度のモニタリング調査結果について

事務局) 〈資料-6を説明〉

委員) ・資料の作成にあたっては、目的、方法、結果等について明確に整理すること。
・掘削地のモニタリングについては、各掘削地の目的と照らし合わせて結果を考察すること。

事務局) 承知した。

委員) ・人為攪乱型実験地では、ヒメガマが繁茂してしまっているが、夏水・冬水田んぼの環境が理想である。

委員) ・人為攪乱型実験地は、掘削直後の春先にはセイタカシギやムナグロが確認されたが、水位上昇により耕起が行われずヒメガマが繁茂し、これらの鳥類はみられなくなった。

- ・これからヒメガマの除去を行うとのことだが既に種がついている。実施にあたっては、適切な時期や方法を考えたほうがよい。

- 事務局) ・今後のヒメガマの除去については、種ができる前の時期に小山市と連携して取り組んでいく。
- ・水位については浅くする方法を検討したい。
- 委員) ・どのようなタイプの湿地がどのような割合であると良いのか既往のモニタリング結果を踏まえて考えるべき。
- ・環境学習フィールド(3)拡張部1で沈水植物が確認されなくなった点について考察すること。
- 委員) ・昆虫調査の結果については、重要種だけでなく確認種リストもモニタリング調査結果として重要であるので提示して欲しい。
- 委員) ・地下水位の結果について、調節池全体として評価を行っているが、傾向が異なる観測井もあるためもう少し細かな考察をした方が良い。
- ・水質については、モニタリング項目となっているが何を計ってどのような結果が得られているのか取りまとめること。
- ・現地視察した与良川との接続により生活雑排水が入ってくる池もあることから、水質についてはどういう視点で何をしていくのか考える必要がある。
- 事務局) ・与良川との接続により、簡易的にでも水質についてモニタリングを実施したい。
- 委員) ・地下水位の観測結果から、表層の粘土層から粘土層下位の砂礫層へ地下水が浸透している。この粘土層は、渡良瀬遊水地周辺が河口の干潟であった時代に出来上がったもので砂層がその下にあるため水はけが良く、周辺の農業用水が砂礫層の深い井戸からくみ上げている為である。蒸発も考えると掘削した池の水位が低下するのは仕方がない。
- ・与良川との接続はこれを補うものとしてうまくいくかもしれない。

(3) 市民活動の報告

1) 渡良瀬遊水地野鳥観察会の活動

委員) 〈資料-7①を説明〉

2) 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の活動

委員) 〈資料-7②を説明〉

3) わたらせ未来基金の活動

委員) 〈資料-7③を説明〉

(4) 今年度の取り組みについて

事務局) 〈資料-8を説明〉

委員) ・与良川の連結は、与良川の流れに対して横断の掘削を行っていくため、地形等を把握し池の水が逆流してしまわないよう注意すること。

- 委員) ・この事業では様々なデータが蓄積されてきている。表層30cm以浅の土には外来種の種子が多く含まれるので撒き出さないように注意が必要である。
- ・深く掘り下げて、良い水分条件が保てると近年確認されないような重要種が確認される可能性がある。
- 委員) ・与良川の接続は大変興味深く、いい方向に行けば生物相にもいい方向で働くと考ええる。水位変動が大きい点が気がりであり、接続後の水位の状況、生物相の状況を確認して欲しい。

4. 閉会

〈閉会の挨拶〉

以 上